

# さたけ散歩

第11号

◇次号予告◇

次回のテーマは「天空の塔 東京スカイツリー 押上」

東京都墨田区押上を特集します。



白鳳仏が安置される武蔵野の古刹 深大寺



深大寺 (東京都調布市)



東京都調布市深大寺元町五丁目にある深大寺(じんたいじ:地図①)。日本三大だるま市の一つである「深大寺だるま市」が開催されることで知られています。そもそも「深大寺」という名称は、仏法を求めて天竺(てんじく:現在のインド)を旅した玄奘三蔵(げんじょうさんざう:三蔵法師)を守護した深沙大王(じんしゃだいおう)に因っていると伝えられています。いまから1,281年前の733年に創建され、東京都では浅草寺(せんそうじ:東京都台東区浅草)に次いで二番目に古い寺



明治42年、元三大師堂(がんさんだいしどう)より白鳳時代(はくほうじだい)の作とされる銅造釈迦如来倚像(どうざうしゃかによらいぞう)が発見されました。白鳳時代(天武・持統天皇の時代)の仏像は関東地方には数少ないとされ、現在は釈迦堂に安置されています。ちなみに倚像(いぞう)とは、椅子に腰を掛けた姿を指します。



毎年10月中旬、ご当地名物「深大寺そば」にちなみ、「そば守観音供養祭」が行われます(写真上は「そば守観音像」)。



江戸時代、米の生産に不向きだった土地を嘆いた小作人たちはそばを作り、深大寺にそば粉を献上しました。深大寺側はこれをそばとして打ち、来客をもてなしたことが「深大寺そば」の始まりと伝えられています。現在は深大寺の門前を中心として20数店舗が軒を列



深大寺に隣接する調布市深大寺水車館には武蔵野台地の生業を紹介する展示回廊と水車小屋が存在



■アクセス  
京王線調布駅北口より吉祥寺駅または三鷹駅行きバスに乗車、深大寺入口下車



江戸時代後期、文人・狂歌師として著名な太田蜀山人(おおたしよくさんじん:太田南歌)が深大寺そばを食し、これを称賛したことにより知名度は上がり、多くの文人や墨客に愛されるように



深大寺を歩いて

深大寺に隣接する東京都神代植物公園(じんたいしよくぶつこうえん)はもともと深大寺の寺領でしたが、昭和36年に都立としては唯一の植物公園として開園しました。都内では最大規模となるバラ園は274品種5,100株を誇ります。春・秋にはバラフェスタが開催され、夜間のライトアップも楽しむことができます。